



「あま市の暮らし」ことばと学校

小林 龍一郎

「広島県三原市深町のことば」年齢差に着目して「京都橘女子大学文学部国文学科法地地慶子さん。本校の卒業生で卒論のために母校においでく...

調査方法は基本的の収集を行ない、変化の背景として、老年層は全てを理解したうえで、若年層との会話の壁をなくすた...

PTA会長時の思い出

深小学校

校舎建設の回想

松本 光明



当時、深小学校建設に当たり、三原市教育委員会より、基本設計が出来たとの連絡があり、教育委員会に出向き、教育長他数名の方と話し合いました。

が運動場からなくなれば、子どもたちも伸び伸びと遊べる様にもなくなり、教師も車に対する気遣いもなく、この構想を達成するために、隣接地の分譲にご協力頂いた岡本様に今更ながら感謝していま...



と、小学校における共通語化の傾向がどんどん進み、今後その傾向はますます進んでいくに違いないと予想してある。

入学おめでとう

- 植田 峻輔 安藤 千晶
岸掛 海南 井手上 千春
網掛 祐翔 鶴谷 真央
野村 佑介 畑中 真璃子
小榮 浩樹 藤原 里紗
湯淺 圭祐 村田 力武 布美子



喜代子

奉仕する高校生

如水館高校インターアクトクラブ(奉仕と国際理解を深める目的の会)代表 東葉子)会員十八人が、三月十七日深千川神社から尾道境までの県道清掃奉仕作業に汗を流しました。

有り難うございました

今年、三月末で退任された元深小学校長 小林龍一郎先生から、太鼓三張り。鏡面三面、法被二五着の寄贈を受けました。

四月町内各種団体行事予定

- ◆小学校(幼)
就任式・始業式 六日
入学式 一〇時 七日
離任式 〇日
集金日 一日
貯金日・入園式 二日
参観日・PTA総会・歓迎会 五日
家庭訪問(上) 九日
同(中) 一〇日
同(下) 二〇日
なかよし遠足 二八日

- ◆町内会
総会(上) 九日
同(中) 九日
同(下) 九日
(連合会) 下旬
◆尚寿会
総会 六日
◆女性会
総会 八日
親睦会(上) 六日
(中) 一日
(下) 九日

入園おめでとう

- 藤原 正彦 宮永 真歩
砂田 岳大 馬越 香帆
中重 恵介 屋敷 奈々
池田 耐智
小林 令弥
佐藤 令弥



黒地の路面に黄色のセンターラインが伸びる。町民宿願の歩道がほとんど完成した。児童を初めとする県道使用者は、これだけで格段の安全が確保され、カーブ部も緩やかに補正され、痛ましい交通事故もこれではなくなる。国道二号の交通渋滞から推して、中之町・深町・美ノ郷町經由の車は今後も増えることは確実。特に三原バイパスが全線開通するまでは、この五五号線がバイパスの機能を代行するのではなか。特に深小学校、如水館校に通う児童・生徒にはなにより道の整備できたのも、地権者のみなさんの協力があったものので大変ありがたい。歩道設置は小学校PTAが唱えて、一五年以上の歳月が流れたのではない。町内会連合会が発足したのが九三年、当時の最重要課題として取り上げられたのが「歩道設置」。地域の声が行政に届いて今日に至った。国道・高速自動車道を始め、港湾・空港等の公共施設が整備されることにより、我々は快適(公害もある)な生活ができる。私権の主張は、「公共」を視野に入れたパランスのとれたものであることが望ましい。深町にできた時ハイパス、完成一步手前の歩道は、公共の二字を考慮の外に置いては考えられぬ地権者の英断。

「近東伊太利航路」の思い出 (6)

秋本 俊之

ゼノヴァは伊太利最大の国際港ですが、観光都市として有名でも市内には、欧州一般の都会の様に「ルネッサンス」時代の文化遺産が街中にあふれ、街の雰囲気、ヨーロッパ風の石の芸術品があふれていると言っても過言ではありません。

「ゼノヴァ」に於ける停泊期間が四〇日と長かったため、暇をみては上陸し散歩旅行を楽しむに出かけました。

その中に、積み荷に関してロンドンの英国政府と、日本の大使との話し合いが付き、今回の宝蘭丸の積み荷の「ドイツの発電機」については黙認の形をとることとなった由で、ようやく出港する事が出来ました。

「けん」と

小林正美・千穂

我が家の末っ子が、この新学期より深幼稚園の年長(黄組)になります。

五年生になる娘、二年生になる息子達とは違い、落ちつきのない子で、少し心配しております。そんな息子の名は「健人」(けん)と言います。

上組の方からは、今のところ近所に幼稚園児がおらず、今まで一緒に通っていたお姉さん達二人も一年生になり、行きは家族が送って行きますが、帰りは長畑鉄工所前より歩いて帰ってきます。今までも、二人のお姉さんと歩いて帰っており、時には一人になることもあったのですが、家にはちゃんと帰れており、そう心配はないのですが、帰り道が一人になるといふ事は、人のかかわりもないという事は、

腰し掛けば一と休んでいると、現地人が近寄り、伊太利なまりの英語で話しかけてきて、一時を過ごしたことも、楽しかった思い出の一つです。

街を散歩しながら買物をする時も、当時の日本はまだまだ経済力もなく、日本金はそのままだ通用せず、米国のドルか英国のポンドなら「OK」でも「ジャパマン」は「ノーグッド」と取ってくれない。又、街行く人も中国人と間違えられた事がよくありました。中国人と日本人は全くよく似て見分けがつかないのも尤もだと思いました。

ボクの学童集団疎開の思い出

元 大阪市立海老江東国民学校 1ねん ニシダカツヒコ (その1) 昭和20年3月3日 大阪大空襲



その頃 毎晩のように空襲警報のサイレン。弟が生まれて3日目の晩。米軍B29爆撃機編隊が教回飛来。爆弾・焼夷弾が投下され、爆風と共に家の障子も真赤。母子4人が防空壕へ。家に残った時 弟の胸の緒は母の背中に貼りついてた。翌朝 淀川大橋が照準で大破と知る。運河には土佐工門や馬の死骸が浮かび近隣の家がくすぶっていた。後に在郷軍人だった父より、生駒山上より見た大阪街は火の海だったと直撃した。(次頁に続く)



本年もよろしく 深小学校 野山もすっかり春めいてまいりました。暖かい春日の十日の中、四月には新一年生十三名が入学し、八十名になります。在校生も楽しみに待っているところ。昨年度は、地域の方々にとってもお世話になりました。裏山の自然体験コースの整備、新春ふれあい広場でのとんと作り、こまの回し方や昔の暮らしについても教えていただきました。また、昔のおかしの作り方も教えていただき、本当においしくいただきました。子どもたちにとつて、先生は「学校の先生」だけでなく、地域のおばあちゃんやおじいちゃん、近所のおじさんやおばさん、隣のお兄さん、おねえさん、地域の方々全てが先生なのです。もちろん、教職員の方たちも多くのことを学ばせていただきました。地域の歴史、そこで生きてきた方々の生活の知恵、地域への思い、願い等々、体験が貴重な体験でした。このように体験は、友だちや保護者、地域の方々とのかわりを深め、相手の思いを尊重することを学んでいます。今後とも、子どもたちにも「生きていくためにがんばりますので、ご支援をお願いいたします。」

で、折角の帰り道、人のかかわりなど大切にしたいと思ひ、皆様にご協力をお願いしようと思ひ、二人が帰る道中暖かく声をかけて頂いておりました。謝しておりますが、けんとは、恥ずかしがり屋のわりに、やんちゃな所があり道中ご迷惑をおかけする事もあるかも知れません。

りしてやって頂けたら...と、思っております。小さな子どもというのは、悪い事をしていても後で言われても忘れてしまったり、意味がわからなかったりします。『いけないな』『あぶないな』と、思うところをもし見かけられたら、その時、その場で叱り、

教えてやって頂けたらありがたいと思ひます。人と人のかかわりは、小さな時からか、わっている、大きくなっても自然と続けられてくのではないのでしょうか。小さな町の子どもの話ができる。少しでも多くの人と話ができる。少人数の方でも心がけられているので、息子の姿を見かけられたら、声をかけ、気にしてやって下さいませようお願いします。

新学期より一人で帰るけんとか、皆様が我が子と思ひ声をかけたり、叱った

- 春夏秋冬
弥生春 子孫ひ孫に 囲まれて
四歳児 ひい孫娘 格好よく
年々 弱る身体は 愛おしき

